

第38回 横浜みどりアップ計画市民推進会議 会議録	
日 時	令和5年2月3日（金）午前10時から12時まで
開 催 場 所	市庁舎18階 共用会議室みなと1・2・3
出 席 者	池島委員（web）、今関委員、岩本委員、内海副座長、奥井委員、小野委員、国吉委員、進士座長（web）、関根委員、高田委員、高橋委員、村松委員、望月委員（五十音順）
欠 席 者	池邊委員、石原委員、野渡委員
開 催 形 態	公開（傍聴1人）
議 題	1 横浜みどりアップ計画4か年の進捗状況について 2 横浜みどりアップ計画市民推進会議2022年度報告書（案）について 3 「これからの緑の取組[2024-2028]（素案）」について 4 その他
議 事	<p>（事務局）</p> <p>それでは、第38回横浜みどりアップ計画市民推進会議を開催させていただきます。感染症対策として座席の間隔を広めに取っています。委員にはマスク着用をお願いします。あわせて、マイクの受け渡しをする際には職員がマイクをアルコール消毒するという対策をとらせていただきますので御了承いただきますようお願いいたします。</p> <p>まず、本日の会議について、御報告申し上げます。本会議ですが、横浜みどりアップ計画市民推進会議運営要綱第5条2項の規定により、半数以上の出席が会議の成立要件となっておりますが、本日、委員定数16名のところ、13名の御出席をいただいておりますので、会議は成立することを御報告いたします。</p> <p>本会議ですが、同要綱8条により公開となっており、会議室内に傍聴席と記者席を設けています。また、本日の会議録につきましても公開とさせていただきます。委員の皆様には、事前に御了承いただきたいと思っております。</p> <p>なお、会議録には、個々の発言した氏名を記載いたしますので、併せて御了承ください。さらに、本会議中において写真撮影を行い、ホームページ及び広報誌等へ掲載させていただくことも、併せて御了承願います。</p> <p>次に、事前に送付させていただきました資料の御確認をお願いいたします。</p> <p>次第、資料1から資料4です。不足等ありましたら挙手をお願いします。</p> <p>また、参考資料として、みどりアップ計画の冊子、年度別の実績の概要版、年度別の市民推進会議報告書、後ほど使用するスライド、2022年11月末時点の実績一覧を綴じた緑色のフラットファイルを置かせていただいております。</p> <p>議題に入る前に、事務局側の出席者を御紹介させていただきます。</p> <p style="text-align: center;">（事務局参加者紹介）</p>

	<p>(事務局) それでは、みどりアップ推進担当理事の橋本より挨拶をさせていただきます。</p>
	<p>(事務局) 本日は、本会議に御出席賜りまして、誠にありがとうございます。また、日頃より緑行政に御支援いただきまして、ありがとうございます。</p> <p>本日は、みどりアップ計画の4か年の進捗状況を御報告させていただきます予定ですが、これまでどおり忌憚のない御意見いただきますようお願いいたします。</p> <p>また本日は、令和6年度以降の緑の保全・創造の取組をまとめた「これからの緑の取組」の素案を説明させていただきます。これは現在実施している「みどりアップ計画」の次の計画の素案にあたるもので、こちらをあわせて御説明させていただきます、御意見いただければと思います。</p> <p>2027年には国際園芸博覧会が上瀬谷で開催されます。先立って、基本計画が発表されましたが、これからますます準備が加速してまいります。国際園芸博覧会では、これまで取り組んできたみどりアップ計画の成果や市民の方々の活躍をぜひPRしたいと思っておりますし、市民の方々の活躍の場にもつながると思っております。</p> <p>みどりアップ計画を進める中でもPRをしつつ、市民・企業の皆様と一緒に盛り上げていきたいと思っております。</p> <p>簡単ではございますが、挨拶にかえさせていただきます。本日もどうぞよろしくお願いたします。</p>
	<p>(事務局) 本日の内容は、4か年の途中ですが、4か年の実績を紹介することがひとつ。そして、もう一つは「これからの緑の取組」の素案です。</p> <p>事務局からは以上になります。このあとの進行につきましては、進士座長をお願いしたいと思います。進士座長、よろしくお願いたします。</p>
	<p>(進士座長) 皆様、忙しいながらお集まりいただきありがとうございます。私は1月のほとんどは東京にいましたが、前後が詰まっております、本日は福井から参加しています。遠距離ですが、よろしくお願いたします。</p> <p>本日は節分です。この市民推進会議をこんなに早くから始めたかなと思っていました。2027年に国際園芸博覧会を開催することとなっています。横浜市ではみどりアップ計画やみどり税、緑化フェアに取り組んできて、まさに国際園芸博覧会は総仕上げの段階に行くのだろうと思っております。博覧会協会は国がつくっていますが、こちらから言えば横浜の博覧会だと思います。これまでの緑政の新しいチャレンジの総集編を全国に、あるいは、外国の方たちにもアピールするチャンスになるだろうと期待しています。</p> <p>その手前で大阪の万博があります。マスコミは大阪との対比に注目するでしょう。</p> <p>大阪の博覧会会場計画では、大きなサークル状の交通フレームをつくったりして、相当予算をかけるようです。ただ、私から言うと、技術文明の最後のあがきみたいなものが見え</p>

ます。その前年との対比で、横浜の本質的なまちづくりや、環境先進都市を目指してきた素晴らしさがまた輝けるのではないかと考えています。

たまたま政府出展の懇談会の座長も引き受けています。是非、横浜が主人公だと思ってもらいたいです。市民推進会議のような市民参加する組織があり、みんなで多少の税金を払いながらいいまちをつくるということです。まさに 21 世紀型の新しい時代の環境まちづくりを、横浜から世界に発信すると良いと思います。

今日、直接の議題ではありませんが、事務局には国際園芸博覧会の方向性について伝えていただき、それについても皆さんから積極的に意見をもらうことにします。

みどり税のことも着々とやっていますが、今後も更に必要性は高くなるので、継続してもらえませんか。

横浜の「市民参加力」、私は「環境市民」と呼んでいます。そういう市民性が横浜は間違いなく断トツです。それをアピールするためにも是非、国際園芸博覧会を開催してください。事務局でも既に、博覧会の跡地を公園にし、更に横浜のみどりを強化する方針を出しています。できればそこで、市民のライフスタイルにグリーンが入っている様を見せてもらいたいです。従来のように企業のパビリオンが並んでいるような工業都市っぽい博覧会ではありません。会場となる上瀬谷の現場を何回か見っていますが、市民の森もすぐそばにあり、とてもいい田園的な里山風景です。

横浜は今までみなとみらい地区が中心で、海岸線のおしゃれな街をアピールしてきました。しかし、市域の大半は、瀬谷のようなところが横浜の原風景です。そういうものを土台にしてやるような博覧会にできないかということで、私は政府出展でも色々発言しています。皆さんに主人公になってもらわないといけません。今日そんな気持ちで意見を出してもらえると有り難いです。

さて、今日は議題が三つあります。まず、みどりアップ計画の 4 か年の活動の進捗を見てもらいます。続いて、報告書骨子案の確認をします。計画の点検や総括は今後の各部会で深めてもらいますが、二つめ目でその見通しについて話します。

最後に、博覧会もそう遠くないターゲットですが、先を見込むことが大事なので、展望について議論します。それでは議題 1 について、事務局からの説明をお願いします。

#### (事務局説明)

(進士座長)

2022 年度のまとめについて、部会でも説明して総括するでしょうから、ここで全体としての議論をしたいと思います。

全体的に大変よくできていて、達成率も随分高くて、目標どおりやっています。メニューも大変幅広く、よくやっている感じがします。全体的にまず気づいた点や、説明に対する質問はありますか。事務局側の責任者として橋本理事いかがですか。

(事務局) 今回、コロナの影響を受けたところは確かにあります。樹林地の指定で、地権者になかなか会えませんでした。しかし、4年目で地権者に接する機会も多く、継続してやってきます。協力してもらえるところは指定が進んでいると思います。これからは交渉だけではなく、お願いや紹介など、さらなる保全に協力いただけるようにしたいです。

また、市民に近い農ということで、農体験が大分進みました。市民意識調査でもそういうものを求める声もありますし、もっと頑張らないといけないと思います。

緑化の取組は、地域緑のまちづくりなど局内で結束して進めています。国際園芸博覧会につながる取組としては、こういった花の取組もしっかりやっていかないといけないと思います。

球根ミックス花壇は都市緑化フェアで採用し、その後公園愛護会の研修で継続してやりました。2年前は176団体ぐらいと一緒にしています。「国際園芸博覧会でみんなと一緒に蒔こう」と声をかけたところ、一気に1,000団体以上に増えました。横浜にはこういった力強い市民力がありました。是非、園芸博で市民の活躍を色々なところに示したいと思います。

(進士座長) 本当によくやっていると思います。計画があまりにもバラエティーに富んでいて、市民が「こういうことは大事だ」と思うようなこともほとんどカバーしているので、ほとんど意見を出すことはないと思います。

ただ、量と質はどうかとか、そこに関わった市民にとってどういう意味があるのかというふうに今は少し深化して、多少議論してもらってもいいかもしれません。

説明を聞いていて、とても丁寧でよく分かりました。例えば、地域緑のまちづくりで野庭団地のことをやっています。野庭団地は昔から市民活動を頑張っています。柱3の22のスライド写真は葉ボタンか何か植わっているのでしょうか。私はいつも思いますが、毎年苗を買って植え付けるのではなく、持続可能性ということで、同じ季節になったら繰り返し出てくるような多年性の植物の景観も少しずつやらないといけないと思います。生き物は大事なので、毎回苗を植えていくのがいいかどうかとも思いました。

柱1の3のスライドで、樹林地の維持管理が出ています。作業後は電柱が目立つし、緑の量が小さく見えます。素人が見ると、作業前のほうがいい写真だと思います。これは林業の施業なのです。林業の場合は柱を取るので、枝を下ろしたり下刈りをします。一般の方がナチュラルだという感じではない方向になっています。森は木の畑です。木がよく育っていい木材が取れるようにするのです。

一般の方は通りかかると、「せっかく沢山の緑があったのに」と思ってしまうのです。解説をしないと分かってもらえません。写真でビフォーアフターを見せたときに、効果的なものとそうでないときがあるので注意するか、逆にその意味を伝えていくことです。街路樹などはやはり適切な剪定をしないと信号が見えなかったり、色々な問題が出てきますが、

山のみどりは別な側面があります。説明しないと分からないし、特に子どもなどはなお分からないです。学校で「木が大事だ」と教わりますが、「切っているじゃないか」と言われます。

でも、木は切ることが必要な場合もあります。枝を下ろさないといけないのは、節が出てしまうと材木の値段が下がるからです。昔の世代は都会人でも子どもの頃から知っていました。今の都市社会はなかなかそうではなくなってしまったので、丁寧に説明しないとイケません。

柱3の18スライドに「街路樹の良好な景観の創出」があります。都市では街路樹のみどりがとても大事です。実際には、道路の管理の中では街路樹は付録になっていて、そんなにメインにはなっていません。美しい並木は都市の格式みたいなものをよくするので、とても大事です。サクラだけだと全体が分かりません。

瀬谷の会場の話ですが、駅からのアプローチで「サクラがどうの」とあちこちから言われます。柱2のスライドで農業景観でツツジが植わっている写真がありました。瀬谷の駅からのアクセスで、ああいうことを今からやっておいたらと思います。桜並木もとても大事ですが、2027年以前から会場へのアプローチを全体として良くするというようなことです。地区指定して取り組むなども大事かと思います。

(事務局) 池島先生が退席ということで、コメントを残しています。代読します。

4か年の進捗や2022年度の報告書、骨子案の内容についてはこれまでの実績であり、問題なく遂行されていると思います。

一方、2024から2028については変化があまり見えません。これまでの取組自体がいい内容なので、その延長上にあることは問題ないと思いますが、時間の推移とともに新たな課題もできていると思います。みどりアップも少しずつリニューアルしてもいいのではないかと感じています。そうした部分があり読み取れない素案になっています。

(進士座長) 池島さんの指摘はそのとおりです。事務局と事前に相談したときもそういうことは話しているし、今それをやるようになっています。

せっかくなので、最後にまとめて自由に議論できるようにしましょうか。

市民推進会議のメインの仕事で、2022年度の総括をしなければいけません。では、議題2について説明をお願いします。

(事務局説明)

(進士座長) 趣旨が分かったでしょうか。説明する側は全部やっているのでよく分かっているのですが、一言で言うとどういうことでしょうか。

(事務局) 基本的に、3か年評価の報告書と4か年評価の骨子で枠組

みは変わりません。

(進士座長) 4か年は前倒しして、先を見ようとしています。そういうことは頭に置いておいてください。今の議題について、全体的に何か質問はありますか。議題としては「2022年度報告書の骨子案」です。根本的な構造は変わらないということですが。望月先生いかがですか。

(望月委員) ちょうど計画が切り替わる時期になるので、こういう仕切りを決めておくことはとても大事です。  
ただ、枠組みは変わらないので、やはり延長線上を意識しながら、2022年度のまとめをどうするか考えていくのは非常にオーソドックスなやり方です。今の説明で多分「そういうことか」と分かったと思います。それぞれの部会で色々な議論が出てくるので、それをまとめた上でこの枠組みも含めて再度議論するのがいいのではないのでしょうか。

(進士座長) 今、望月先生が言われたとおりです。枠組みというのはそういう構造で、樹林地と農と緑化になっているので、これは変えられないでしょう。

広報なども随分色々活発にやっています。市民推進会議の広報誌もありますが、行政側から森のニュースレターを出したり、はまふうどナビをやったりしています。資料は市民推進会議の広報誌のみが載っています。

ただ、外に伝えるときには、「こういう個別のものにまで突っ込んでいる」と、少しずつ進化している感じが出せるかもしれない。フレームは変えませんが、せっかくこうやって総括して全体で数年分を見ようとしているのだから、着々と進化している感じが出るようにレイアウトや素材も少し増やしてもいいかもしれません。これからそれぞれの部会の課題と同時に、全体の広報や、2027年の国際園芸博覧会までに自分たちがやったことをどうやってアピールしたらいいかということです。あるいは、政策論でそういうことを総合的に進めるための推進体制があったらどうでしょうか。行政の中ではそれに近いことをしていますが、行政も市民も横浜市を挙げてやるようなことで、どういう仕掛けがあるのだろうかという議論も各部会でやったらと思います。部会のテーマでもいいし、全体に対して出してもらってもいいかもしれません。これは全体会議で、個別に入りすぎるので、今日の会議の中ではもちろん決めにくいでしょうが、部会長にはその辺を是非よろしくお願いします。

広報部会は特に、これまでの発展段階でどんどん進んでいます。そういうことも踏まえてPRをするかということです。SNSみたいなもので色々出すということも検討がありました。

私が国際園芸博覧会の政府出展の相談を受けていることは、政府出展だから日本国としてやっているだけでなく、開催地の横浜がもっと前面に出たほうがいいと思います。是非横浜からも別出展でもいいし、横浜市民活動ブースがあって、皆さんが出ていってアピールするぐらいの活力を見せる

	<p>となお面白いです。</p> <p>とりあえず 2022 年の総括をするということですが、どうでしょうか。是非発言してもらえませんか。</p>
(村松委員)	<p>5 ページの「実績」の図で、2022 年度報告書に調査部会がありませんが、今年はないのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>2022 年度報告書を取りまとめる段階では、調査部会はまだ実施していないので記載していません。2023 年の秋頃に調査部会を実施し、2023 年度報告書に掲載します。</p>
(内海副座長)	<p>Action 5 号で、農園付公園の一覧がありました。私は初めて「11 か所できている」と分かりました。昨年の部会だと思いますが、農園付公園が何箇所あり、今、何箇所をやろうとしているのかという全体に対しての枠組みがもう少し分かる構成にすると、目標の意味が分かりやすいという話が出ました。5 か年なら 5 か年全体の目標を達成しようということ。今日たまたま市民の森やふれあい樹林のマップをいただきました。例えば、市民の森は今、幾つあり、これから目標として幾つを掲げようとしているのでしょうか。表現の仕方も難しいことは難しいですが、そういうしつらえにすると、「今まで何年かかってやったので、このぐらいの目標はけっこう難しいのではないか」という中身の議論が非常にしやすくなると思いました。</p>
(進士座長)	<p>内海さんの言うとおりで。農園付公園のリストをもう 1 回見せてもらえますか。これは現在全部開設しているのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>全てオープンしています。</p>
(進士座長)	<p>ここから更に計画がありますか。これで終わりですか。例えば、予定があるのなら色を変えて「計画実施中」とするのも一つの方法です。</p> <p>市民に「農園のある公園」というと、公園用の広報でしかありません。ただ「特別な公園もあります」ではなく、企業風ですが、「横浜市民は、農のあるまちで新鮮な野菜を自分でつくって菜園ライフをエンジョイできます」というようにしたらと思います。農園は 1 人でなく、みんなでやります。そこへ行くとシニア世代も楽しいです。色々なキャリアのある人が集まり、野菜を作りますが、野菜作り以外の話題も広がってコミュニティがしっかりします。</p> <p>先の報告を聞いていると、市民の森マップは本当に充実してきて、皆さんこれだけ頑張っているわけです。これはどこで配布しているのでしょうか。市民情報センターでしょうか。旧庁舎は覚えています、現庁舎はどこにあるのか知りません。ああいうところで全部受け取れるようになっていますか。</p>
(事務局)	<p>市民の森マップは市民情報室に置いてあります。また、農</p>

と市民のふれあいの場については公園もあるし、市民農園として農家が開設しているものもあります。農家が開設している分まで含めると、開園したりしなかったりするため、なかなかリアルタイムに表現しきれない部分もあります。

みどりアップ Action 5号については、市民委員の皆さんが「農園付公園について調べよう」ということで調べました。

そのときに開設しているものを裏面に記載しています。そのことも含めて今後編集の参考にしていければと思います。

(進士座長)

私が言っているのはそんな細かい正確なことではなく、情報の出し方です。行政側から自分の仕事をきちんと伝えることも大事ですが、横浜市のイメージアップや新しい時代の市民のライフスタイルの提案を踏まえて書くだけで違います。

横浜で言うと、昔からアーバンデザインのチームは非常に発信が上手でした。色々な印刷物や著書もたくさん出ました。市の広報室で全部情報提供していました。

みどりは完璧に近いほどよくやっています。だけど、それが何百万かの市民に十分に伝わっているかということが次のステップです。もっと言うと、横浜のイメージとして、「それはすごい」という売りにまでなります。それが環境先進都市の根本のコンセプトです。もう少しそこを強化したらどうかという私の提案です。

(事務局)

みどりアップ計画の名称もありますが、事業ごとにやっていることはそれぞれの関係を図りながら市民に提供するようにしています。そのPRも含めて今後努めていきたいと思っています。

(高田委員)

私たちは一市民です。Actionの編集をしていて課題に向かっていったとき、市民の森にしても農園にしても地域緑のまちづくりにしても、何がどこにどういうふうにあって、どういう活動をしているか、リアルタイムの現場がよく分かりませんでした。まずこれが市民の目なのだと思います。全体像を知りたいし、皆さんにも知ってもらわないと、今の状況は分かってもらえないと思いました。各号に必ず全体像のマップを入れて、大きく分かるようにしています。今回取り上げるところだけでなく、全体像を入れたいという意向があり、それぞれ入れてもらいました。「これでは分かりにくい」とか、何回も皆で意見を出し合いながら取り組んできました。この点については、皆さんが目にしたときにも分かりやすいのかなと自負しています。

先ほど進士先生がおっしゃった切り口のところで、まったく発想の違うアピールとして、「農を楽しめる横浜市」といったことで、違う場面での発表もしてもらいたいです。そのときにこういうマップが役に立つかもしれません。

例えば、先日1階のアトリウムで、下水道150周年というイベントを開催していました。同じように、報告書にあるマップ3つを並べて「横浜市のみどりはこんなです」という取組をしてもらうのも一つかなと思います。そのキャッチフ



レーズが「農も楽しめる横浜市」とか、「近くにたくさん市民の森」というような、住みやすく楽しめるイメージにしてもらえたらと思います。

ふれあいマップを今日もらいました。Action の図と比べて、どうでしょうか。

例えば、名称のところは白ではなく、緑で白になるのか黒になるのか、ちょっと見にくいです。そういう意味でも見える化というのは1人ひとりのデザイン性です。せっかくだいい図ができていますので、もう少しその辺も工夫してもらえたらよかったですと思います。

(進士座長) 私より高田さんの説明のほうが正しく、分かりやすかったです。そのとおりです。ほかの委員の皆さんはどうですか。

(岩本委員) 今、市民の森の意見が出たので、私も関係者として一言述べます。

このふれあい樹林マップは非常に素晴らしいです。それぞれの森の案内やこの図に関しても、市内にこれだけ多くの市民の森やふれあい樹林があります。個々の説明は分かりにくいと思いますが、それぞれこちらのマップと同じような森ができています。それぞれの区役所や行政機関に森のマップの案内をたくさん置いてもらっています。それを見てもらえば分かります。

沿線や色々なところでそれぞれの森のPRもされています。分からないところはまた役所に聞けば説明してもらえるとと思います。

こちらについての細かい話は、それぞれの部会のほうでよろしくお願いします。全体的に私が感じていることを話します。

私の近くの区役所等でも、花壇に色々な花がきれいに植えられています。ズーラシアも私のすぐそばで、非常に多くの来園者が楽しんでます。今度の国際園芸博覧会も私は非常に楽しみにしています。

この国際園芸博覧会の広報のPRの仕方は役所サイドで全てやっているのでしょうか。広報部会でも関わってやっているのでしょうか。もし関わりがあるとすれば、もう少し国際園芸博覧会についてのPRもしてもらえればいいです。私自身もそれぞれのところでパンフレットは何枚かもらっていますが、国際園芸博覧会があることをまだ知らない市民もいます。あまり関心がなかったり、分からないことが現実です。もう少し多くの市民参加があり、私たちの身近で楽しみにしているという気運を高めてもらえれば有り難いです。

街路樹の問題とか木の剪定の問題は、維持管理のことでまた部会で話します。

(進士座長) 岩本さんは市民の森にずっと関わっています。国際園芸博覧会の瀬谷の会場の中か外に市民の森がありますよね。

(岩本委員) はい、あります。

	<p>(進士座長) 市民の森は、もう何十年も前に横浜市が考えたユニークな制度です。でも、ヨーロッパの都市はあんなのは当たり前です。都市の周辺に都市林があります。公園の緑地の背景の中に都市林、「Stadtwald」があります。そこで乗馬をしたり、ものすごくエンジョイしています。森だけのためでなく、全ての市民のためにあるのです。</p> <p>横浜は日本では珍しく、それを率先してやりました。私はこれなども横浜の自慢とし、都市林のようなものを大事にして、今や立派に活用して市民生活を豊かにしているのだという発信ができると思っています。今やっていることはそっくり全部、国際園芸博覧会のアピールのポイントだと思います。是非頑張ってもらいたいです。</p> <p>広報の話は事務局で考えるのですが、確かにまだ伝わっていないし、細かいことも決まっていないところがあります。最初に絵柄を出してしまいました。私はあのやり方は良くないと思っています。昔の博覧会の延長のようなものが出てしまったので、誤解されています。</p> <p>「花博」と通称いいますが、本当は「農博」なのです。花と緑は農業の技術が発展し、より美しくしたものです。公園とか庭園の技術は、古代から言うとも農業技術です。水を引いたり木を植えたり、放牧したり、野菜や花をつくったりです。</p> <p>国際博覧会条約では園芸的な団体が許可する部門になっているので「花博」と言っています。本当は、花も野菜も果物も市民の森も含めて、全部まとめた博覧会というのが今回のねらいです。だから、国は農水省と国交省の両方でやっているわけです。先日の会議には、都市整備局の方が来ていましたが、本当は環境創造局が中心です。</p>
	<p>(事務局) 国際園芸博覧会は、正にそういう場面にしたいと思います。博覧会協会には、横浜市が今こういうものやっていて、次の世代にアピールできる内容が色々ある話はしています。是非、市民が今やっているような市民の森や緑化活動は博覧会の中に入れ込んでいきたいということで働きを喚起しています。</p> <p>急に何かやろうと思ってもできないので、国際園芸博覧会を一つの通過点とし、横浜市民が積み上げてきたものが更に発展するように考えたいです。</p> <p>たまたま横に市民の森がありますが、その近くでは、ちょっと未来的な市民の森を演出するなど、そんなアイデアも所管の中で色々やっています。しっかり取り組んでいきます。</p> <p>先ほどから農体験の話がありました。農園付公園というのは一部です。農政施策で認定市民菜園が7,500区画ぐらいあります。収穫体験ファームや学習農園もあります。そういうものを全部見せないと、市民が農体験できる場がどのぐらいあるのかが分かりません。実はけっこうあります。ただ、ニーズももっと高いので足りないと思います。それは機会をとらえてしっかりとアピールしないといけないのかなと、今日改めて思いました。事務局で詰めていきたいと思っています。</p>
	<p>(進士座長) 2022年度の報告の骨子案については大体例年と同じなの</p>

で、先ほどの意見で、総括の中で計画の先を見て、幾つか強調できそうなものがあつたらそれも考えてもらいたいと思います。是非、部会での議論に期待しています。

では、骨子案はそういう条件付きで了承します。  
続いて議題3について、説明をお願いします。

(事務局説明)

(進士座長)

昔のよりずっとよくなりました。

現計画は来年度で終わりますが、その先をしっかりと皆で議論しておこうと思います。もともとこの市民推進会議は、みどり税で始まった事業が正しく進んでいるか、ある種の監査のような委員会として位置付けられました。しかし、本当のみどりの受益者は市民自身です。市民がそれぞれの立場で参加して、暮らしに取り込んでいます。子どもたちが学校で環境教育を受けています。是非、市民の発意で政策提案や事業の推進についてのコメントもしてもらおうということにしました。これから先は役所がつくったものに乗っていくよりは、「先もこうあるべきだ」ということがとても大事なので、事務局で提案して皆さんに説明しているわけです。是非そういうところでも意見が欲しいです。

この市民推進会議がみどりアップで始まりました。数年前に都市緑化フェアをやりました。その先に国際的なイベントが計画されました。それは多分、緑化フェアなどで市の職員が努力してアピールしたからでしょう。それで決まりました。国もそれを応援し、むしろ主催することになりました。

私から言うと、これは連続しています。今、博覧会の説明までしてもらいました。これまでのみどりアップの総括と、更に外に向かってどうするかという流れで理解してもらえるといいです。横浜はユニークなことをたくさんやっています。全体としてアピールするチャンスです。

望月先生、このぐらいの分析と見解でどうでしょうか。

(望月委員)

やはりみどり税から出発しています。「横浜はよりレベルの高い施策をやる」ということで、超過課税で市民からお金をもらっています。こういう成果が出ているのは当たり前です。だからこそ、日本においては先進的な試みだと思っています。

今度の国際園芸博覧会も一つの通過点と考えていくのがとても大事です。横浜が日本一、みんなが住みたい市になっているのは、みどりがあふれて、しかも、都市的基盤が整備されている都市だからです。更にネジを巻いて先に進むことが大事です。負担に見合うサービスを職員の皆さんも提供していく意識が非常に大事です。よくやってきたと思っています。

(進士座長)

私はいつも、理想を目指すべきだと思っています。よくやっていますが、ここまでやっているのだから、市民に伝えることが大事です。横浜市民全員に手を挙げさせたら、どのぐらい分かっている、参加しているでしょうか。市民部局で毎

年、定期的にアンケートをやっていると思います。少し突っ込んだ設問をして、市民のみどりアップに対する理解度や積極性を把握しておくべきです。足りないところはもちろん補っていきます。

皆さんは暖かいところで会議しているでしょう。私は雪の中でやっています。もう大変です。入試の度に、なぜこんな一番きついつきにセンター試験をやるのかと、腹を立てています。それはみんな東京中心で、北陸のことを知らないのではないかと思います。受験生がいる家庭は全部、車で大学まで送り迎えするのです。

皆さんはいい条件にいるのです。そのいい条件をもっとアピールして、自信を持ってやってほしいです。そういう意味では色々な意見が出るのが大事です。

今日の会議で議論が終わるわけではありません。今日は全体で、市がたたき台をつくっているものを説明しています。まず今日の段階でちょっと発言してもらったらいいいと思います。できれば毎回継続的に皆さんにも発言してもらい、新しい発想を自分の所属している組織でも広げてもらえたらいいと思います。今の説明両方についてどうぞ。

(高橋委員)

みどりアップ計画は、横浜市水と緑の基本計画に基づいて実施されています。(これからの緑の取組[2024-2028](素案)の) 2ページに説明がありますが、水と緑の基本計画とみどりアップ計画の関係性をもう少し明確にしてもらいたいです。

5ページの図には、2006年度から始まり、2025年度に終わる基本計画があり、1期5年のみどりアップ計画があります。重点的な取組は私たちには分かっていますが、今後新しく市民委員になる人もいます。2024年度からの第4期みどりアップ計画が市HPに出たときに、初めて見る人もいるかもしれません。関係性などが明確になると、なぜみどり税が必要かが分かるようになるのではないかと思います。

もう一つは、市民の森や市民農園など、維持管理の対象が(みどりアップ計画が始まった)2009年度からどう増えてきたかが分かるグラフがあるといいです。資料編に入れてもらえると、みどりアップ計画第4期の参考になると思います。(当該期のみどりアップ計画の)5年間だけのグラフではなく、過去からのグラフがあるといいと思います。みどり税の有効性が認識される可能性もあります。

2027年の国際園芸博覧会は、現在の素案の中にはあまり出ていません。2028年度にはみどりアップ計画として総括にする必要があると思います。みどりアップ計画がどういう形で国際園芸博覧会に取組み、実施され、その結果として都市環境がどうなっていくかが市民にも分かるようなアピールの仕方ができたらいいと思います。

(事務局)

水と緑の基本計画との関係性は図として分かりにくいかなと思うので、工夫したいと思います。基本計画は長期的な計画で、その中で5年ごとに特に重点的にやるのがみどりアップ計画です。その辺が伝わるようにと思います。

2点目に、市民の森が5年でどうかというところで、確かに評価が分かりにくいことはあると思います。

58 ページに今の計画の資料があります。市民の森は昭和40年代からやっています。ずっとやってきた取組の中で、みどりアップ計画に入ってからかなり大幅に指定量を増やしてきました。そこは成果だと思っています。参考にもなりますが、分かりやすくアピールできればと思います。

国際園芸博覧会についても、先ほど「通過点」という話もあり、ある意味両面あるのだと思います。みどりアップも含め、これまでやってきたみどりの取組の成果をアピールする場所でもあると思います。その先の「みどりのある横浜のまちづくり」をどう展開していくかにつなげていければいいと思います。概念的な形にはなるかもしれませんが、何か示せる形を考えていきたいです。

(進士座長) もう随分長くやっていますが、みどりアップにして、みどり税をもらって、他の自治体と比較すると横浜が頑張っているのが伝わります。グラフで実績を見せるのもとても大事です。

(奥井委員) これからの4か年計画で、これまでの大まかな枠組みは変えずに延長線上にあるのだなというのが分かりました。今までの取組がしっかりとできていて実績が出ていたから、延長線上でやっていくところは理解できたし、全く問題ないかなと思います。

横浜市がこれだけの取組をやっていて素晴らしいとは思いますが、どれだけ市民が理解できているか、これからの5年間で浸透させていくべきなのかなと感じました。望月委員が「横浜はみんなが住みたいまち」と言っていました。これだけ都市基盤が整ってインフラも整備されて便利であるにもかかわらず、みどりにあふれて身近に感じられ、素晴らしいまちだということを市民がどれだけ実感できるかだと思います。もっと生活に密着したレベルで感じられるようにしてほしいです。横浜市というより区のレベルに落としていくとか、自治会や地域コミュニティに取組をどんどん落としていき、生活レベルで分かるようにしてほしいです。私たち広報もそうですが、より市民目線で発信していくことが必要なのかなと思いました。

先日、調査委員会で地域みどりのまちづくりを見学させてもらいました。みどりをすごく積極的に増やそうとしていて、親しみを感じているのがすごくよく分かりました。ここ数年、それを顕著に感じます。

なぜだろうかと私なりに分析して、一つはコロナがあったからかなと思います。リモートワークなどで癒しを求めています。密を避けてアクティブに活動し、みどりに積極的に関わりたいというふうになってきました。

もう一つ、市庁舎がここに移転してオープンしたのもきっかけではないかとすごく思います。私ははまふうどコンシェルジュをしているので、内部に立っている目線があるのかもしれない。毎週木曜日にJAと組んで野菜を販売したり、

アトリウムでも農業やSDGsのイベントが積極的に開催されています。前の市庁舎では別会場でやっていましたが、今は市役所も1階や2階の普通に市民が立ち寄れる場所で開催されています。目に触れて興味を持つきっかけになっているのではないかと感じました。こういった取組をどんどん積極的にやるのがいいと感じています。

(村松委員)

農業に関して、「市民」がまだ「野菜作りを楽しむ人」や「消費者」という位置付けで書かれている気がします。今、それよりももう少し進んで、産業まではいきませんが、農業そのものを担っている市民も出てきています。農業そのものをやっている団体も、内海委員の調査でも何箇所もあるといえます。お客さんの市民ではなく、農業に携わる市民がいることを書いてもらいたいです。そういう観点から、言葉を足したらいいのではと思うところが数箇所あります。

最初は、12ページの緑四角の三番目「市民と農との関わりを増やし」の次の行に「イベントや農作物の収穫体験」とだけあります。「栽培と収穫体験」としてほしいです。

22ページの「概要」「農地の機能」の中に、「コミュニティの交流」や「学習」「農家と市民の交流」というふうに入れてほしいです。都市農業振興基本法にも、都市農業の機能が六つぐらい書いてあり、「農業体験、学習、交流の場」というのもありました。26ページの真ん中「農体験の場の提供と営農の推進」の最後に、「市民農業大学講座修了生などによる」とあります。修了生も含まれますが、「市民団体」も加えてもらいたいです。

29ページの下に横浜農場の図があります。吹出しの中に「様々な主体が連携して推進」とあります。「市民」には「消費者とはまふうどコンシェルジュ等」だけではなく、「援農者」も入れてほしいです。

そういう市民団体や市民が農業に本格的に取り組む姿は、10年前にはあまりなかったかもしれませんが、今はあります。その点も加えてもらえたらと思います。

(進士座長)

そのとおりです。行政は、農政は農水省系で整理しているので、「生産者と消費者」にしてしまいます。

市民の農との関わりは、「遊農」「楽農」で、楽しみながら、遊びながらやります。だから、農園付公園にしているわけです。既成の概念だと生産者対消費者でとらえすぎているという指摘です。

昔は個人の自宅の菜園でやっていました。東京の人たちでも菜園付住宅が普通でした。マンション族も都市開発をする人たちもそういうことをすっかり忘れてしまいました。もう1回それを実現しないといけません。ヨーロッパは未だに土と触れ合いながら市民生活をしています。これが本来の自然と人間の関係性です。そこへ向かっているわけです。まだ行政は法律で整備しています。分かっている人はみんな分かっていると思いますが。政策と運動にしていきましょう。

(高田委員)

政策としては、みどりを減らさず守り、育てる方向で来た

と思います。アンケートの結果でも、「樹林地の維持管理に費用や手間がかかる」とあります。「森の多様な活用の推進」では、市民としては森を散策するというニーズになってきています。

みどりを増やしてきたことに対し、色々な施策に沿って活動がされてきたと思います。私が自分の樹林を管理しているところでナラ枯れが出てきたりしています。調査部会で市民の森を見たときにも、台風で倒木があったりしました。切られたまま、倒れたままになっているところもあり、そこから引き出すのが難しい案件もありました。うちでも木を倒してみると色々な問題が出てきます。それをどこに持っていき、どう捨てるか、市の中でも大量にあると思います。チップになっているものもあるでしょう。年月が少したってしまうと、もうごみとして扱われてしまうことも体験しています。

本当の意味で最後まで持続可能にしていくには、木の整理をどうするかということです。街路樹も交代していかなければならない木があります。価格としては高いものになるでしょうが、横浜市の中に製材所があり、製材して市民に渡していき、記念として使うとか、横浜ならではの新しい取組やサイクルができたかと考えています。

飛騨のほうでは製材のシステムをつくっているところもあるようです。うちで切った木をそこに出してみても、どうなるかやってみたいと思います。そんなことが横浜市の中でできたらいいです。

(国吉委員)

森と農と緑化の3本柱の中で、森というのはどちらかというと元気な人がアクティブに参加して出かけていくことができます。ただ、なかなか外に出ていけない人たちがどうやって森の中に入っていけるか、関われるのでしょうか。昔からある森はどんなものだったのか、古くから住んでいる人たちがどのように活用してきたか、伝統や文化を言葉で伝えるものも、これから取り入れてもらいたいです。国際園芸博覧会のときに里山や森の原風景を伝えていったらと思います。

なかなか森はハードルが高いので、出かけていくことができません。そのような形で聞いたり語ったりも必要なのかなと思います。

私も過去にタイと北京の国際園芸博覧会に行ったことがあります。タイのときにはそれこそ農博というイメージでした。北京のほうは本当に花博という感じで、「こんなに花が」というアピールと、将来に向けての花と人間との関わりが多かったです。

横浜では森や里山、そこに参加する市民たちの活動をアピールできると、独特な内容になるのかなと思います。原風景ということでは、日本人の心を表すことにもなります。その辺りをこの何箇年かで突き詰めていくことも大切なのかなという印象を受けました。

(進士座長)

国吉さんの言うとおりで。それも私がずっと言っていることです。部会で少し突っ込んで、是非レポートに反映してもらいたいと思います。今、幾つもの意見をもらいました。

	<p>最後に、部長から挨拶をお願いします。</p> <p>(事務局) 忙しいところありがとうございます。本当に今聞いても、農についても交流の点など色々な視点がありました。市民サービスをする側と受ける側という単純なものでもなく、両方混じり合いながらやっていることが、農だけでなく色々な場面でもあるのだなと思いました。</p> <p>国吉さんからは「文化的な側面」とありました。多面的な意見をありがとうございました。</p> <p>今の計画は4年目がそろそろ終わろうとしていますが、5年目があります。まずはそこで反映できるところについては反映しながらやっていきたいと思います。今、議論してもらったのは、これからのみどりの取組ということだったので、そちらのほうにも反映させていきたいです。</p> <p>4年度のまとめについては、各専門部会で深く議論してもらい、意見をもらえればと思います。この市民推進会議は、私どもが視点として欠けてしまうような意見をもらえる本当に貴重な場面です。引き続きよろしくお願いします。</p> <p>(進士座長) 皆さんの協力でかなり濃い会議になったと思います。全員に発言してもらおうと思いましたが、進行が不十分で申し訳ありません。</p> <p>最後に一言。市街地の森と農とみどりと花と、きちんと整理されすぎていてつながりがありません。農地が減っていくので買い支え、次にそれを活用するというで、きちんと論理的に整理しすぎています。実はその間に色々大きなテーマがあります。</p> <p>国際園芸博覧会の会場は瀬谷駅から来るにしても、東名から来るにしても、アクセスするプロセスは市街地で花の世界です。会場内に入ると農の世界があります。奥へ行くと森の世界があります。それを全部連続してオープンスペースとかランドスケープといいます。それでまちのイメージが決まるし、ライフスタイルができ、色々なチョイスができてきて市民は多様な体験ができるのです。</p> <p>ゴールは実は全体です。部分部分は丁寧にやってかなり掘り下げられましたが、もう少し横をつなぐこともやらなければいけないというのが次のみどりアップ計画の課題かもしれません。そういう体制も考えていただき、仕組みをつくってってもらえたらと思います。今日はとてもいい議論ができました。ありがとうございます。皆さんお疲れ様。</p> <p>(一同) ありがとうございました。</p>
<p>資料</p>	<p>次第  資料1 横浜みどりアップ計画市民推進会議 2022 年度報告書 (骨子案)  資料2 これからの緑の取組 [2024-2028] (素案)  資料3 これからの緑の取組 [2024-2028] (素案) 【概要版】  資料4 横浜みどりアップ計画市民推進会議 2023 年度スケジュール</p>